

令和4年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：部活動の「地域移行」～子どもたちがスポーツ・文化活動に継続して親しむことができる機会の確保に向けて～
- 2 日時：令和4年10月26日（水） 15：00～16：10
- 3 場所：赤磐市立磐梨中学校 会議室
（赤磐市沢原149）
- 4 参加者： 磐梨中学校長、磐梨 DreamTown プロジェクト関係者、保護者、赤磐市教育委員会 計7名

5 知事挨拶

- ・約月一ペースで各地で開催している「生き生きトーク」である。活躍されている方の生の声を聞かさせていただいている。
- ・生き生きトークの内容は、今後の県政を考える上で貴重なご意見だ。この度も忌憚のないご意見をいただきたい。有意義な時間になればと考える。

6 発言内容等

【自己紹介、参加の経緯】

- ・中、高、大と剣道を行ってきた。保健体育の教員になり、部活動をはじめ中体連にも携わってきた。色々な問題を抱える中で、より良い部活動の形を考えていた際、国の部活動改革の方向性が出てきたことで、本校も改革をと思い、今、取り組んでいる。
- ・磐梨 DreamTown プロジェクトの会長として参加している。磐梨中学校に教諭として9年、校長として4年務めた。磐梨地区が大好きで、好きな地域、好きな学校のために会長を引き受けた。地域や学校が活性化していけばと思いい、頑張っている。
- ・今から39年前に磐梨中学校を卒業。外部指導者として、20年前から磐梨武道館を立ち上げて指導している。強い弱い時期の波はあるが、柔道の楽しさや高い目標に向かって頑張る気持ちを持ってほしいという思いで、小学生から指導している。地域や保護者とも連携しながら人数も増やし、全ての世代の全国クラスの大会に連れて行ってもらった。様々な指導者にも相談し、協力いただいている。
- ・地元生まれ、磐梨中学校が母校である。中学以来、高・大でもバスケットボールを続け、現在は農業をしながら、中学生に指導している。部活動指導員が始まる前から部活動には携わっていた。今の自分があるのも部活動のおかげで、地元に戻って恩返しではないが、少しでも貢献出来たらという思い

である。

- ・長男が柔道、次男が野球でお世話になった。学校の先生、部活動には感謝している。
- ・昨年度まで、桜ヶ丘中学校に保健体育の教員として勤務。在勤期間中の一部期間にタイの日本人学校にも勤務していた。コロナ禍前後の部活動指導、両方を経験している。
- ・3年前から今の部署に所属し、今年度から部活動の地域移行について関わっている。地域スポーツの振興に関わる中で、これを機に勉強し、少しでも貢献していきたい。

【成果や課題、取り組みを通じて感じたことなど】

- ・色々な課題があり、今のままでは行き詰まってしまう。変えていかなければならないが、生徒のことを一番に考えていかないといけない。今まで、部活動は特技を伸ばす、その他色々なことを学ぶ場であった。ただ、その場を学校で確保することが厳しくなっている。その際お願いできるのは地域しかない。子どもたちのことを話すと皆さん協力的だ。地域の方も当然仕事をされていて、休日の指導となると大変だが、子どものこととなると一緒になって考えてくださる。
- ・部活動の場ということだけで磐梨 DreamTown プロジェクトを進めていたらうまくいかなかったと思う。中学生の夢の実現や自己表現の力を高めること、地域や中学校を活性化させるための一つの方策として部活動というものを捉えたことで、協力を得られているのではないかと思う。もともとスポーツが非常に盛んな地域であり、部活動以外にも地域と連携していることもあり、その一環として、スポーツでさらに中学生をとという思いになっていただけたのだと思う。
- ・柔道に関しては、これくらい取り組むのが普通だと感じている。指導者はOB、OG はじめ数人いて、役割分担するなど連携して指導している。小学校から子どもを指導していて、保護者の方とも関係ができています。家族の理解もあり、指導者として数十年続いている。
- ・部活動が制限されていく中で、自分がそうだったように、学校での「部活動」の思い出は大きい。子どもたちのために、部活動の場を確保することは大切だ。地域移行の前から、クラブチームを立ち上げ磐梨中学校の子ども以外にも受け入れて指導している。友だち関係の構築やコミュニケーション能力向上など、部活動・スポーツを通じて築き上げた友達関係は一生続くものでもあるので、そういった要素は良いことだと思う。
- ・学校の先生方は、経験者もおられて一生懸命指導してくださっているが、転

勤があり、子どもも保護者も不安になってしまう。そう考えると地域指導者がいるというのは良いことだと思う。

- ・小学校にスポーツ少年団が存在するが、指導熱心な方が多く、しかも無報酬で指導している。そのような指導を受け、中学校に上がってくる子どもたちがいることを中学校側としては受け止めないといけない。スポーツ少年団関係者の方は協力的で、連携していけばうまくいくのではないかと考える。
- ・先生方も家族があるにも関わらず、学校の子どもたちを優先していただいている。先生方にも休んでいただきたいと思うが、一方、スポーツは休むと休んだ分を取り返すのに時間がかかる。親が何かできればいいが、なかなか難しい。私の子どもは将来、地域の指導者になりたいと言っている。先生方への感謝の思いを持って、このプロジェクトにも登録させてもらっている。父親も指導者として受け入れてくださり、子どもとの会話も増え、子どもの父親を見る目も変わり、いい環境だと感じている。その環境は、先生方や地域の方が作ってくださっており、感謝している。
- ・私が中学生の頃の顧問は、専門の方ではなかった。私は、野球を続けてきたので、子どもたちに指導したい思いから教員になった。現状教員の中にも、「指導がしたい」「したくない」の考えはそれぞれである。教員も家庭環境によって、「指導が難しい」「したくてもできない」という状況がある。磐梨 DreamTown プロジェクトは、全国的に見ても好事例と言える。子どもたちのためにとということで、地域の指導者の方に協力いただけているのだと思う。
- ・地域の子どもたちのためにと、熱意と意思を持った指導者をどこまで確保できるかが、各地域での大きな課題に思う。
- ・前例がないので、磐梨 DreamTown プロジェクトは自由に始められた。困ったら地域の方に相談してきた。意見やアドバイスをいただき、大変助かった。
- ・部活動だけにとらわれず、もっと大きな「地域の活性化」を考え、こちらから地域にお願いするばかりでなく、地域のために何ができるか、何が返せるのかを考えないといけない。子どもが将来、地域の指導者として帰ってくるような好循環を作り出し、磐梨中学校の魅力を周りに伝えることによって、人口が増えることに繋がることになるかもしれない。部活動だけでない、地域の活性化を目指すようになっている。

【今後の取り組み、効果的な支援、アイデアなど】

- ・なぜうまくいっているのかは、校長先生のリーダーシップ力である。中学校側から地域の方に困り感を投げかけていることが、成功している原因の一つと考える。地域に貢献しようという姿を見せることで、他の先生方も連携しやすい。ただ、学校側から発信することが近道に思うが、うまくいくことば

かりではない。

- ・指導者の資質向上が課題だ。以前より子どもも指導者を見る目のレベルが上がり、保護者も上がっている。
- ・1番はコミュニケーション能力であり、子どもだけでなく、指導者、保護者とのコミュニケーション。
- ・地域指導者としての活動が生活の一部になっている。会社員でありながら、平日でも休みをもらい、役員を行っている。
- ・仕事のため、指導に行けない日もある。しかし、他にも指導者がいるため、負担が少ない。地域指導者は、学校と完全に切り離すのではなく、学校の先生方としっかりとコミュニケーションをとり、連携していくことが必要。
- ・スポーツをしていない子どもたちが多くことに驚いている。理由は様々で、学校の関わりや指導者のことを「怖い」と思っている子どももいる。親にできないことをしてくださるのが学校や地域の方々だと思う。磐梨中のような取組が広がって、子どもたちの活動の場が広がっていけばと考える。親同士も繋がりが広がり、色々と情報交換ができ、ありがたいことである。
- ・磐梨中学校の取組がうまくいっているのは、色々なところと繋がっているから。地域には頑張っている方がたくさんおられるので、そのような方をいかに見つけるか、どのように繋がっていくかというところがポイントだと思う。部活動の環境を確保していくためには、大人と子どもと一緒に活動できる場を作っていくことが必要だ。スポーツ・文化活動環境を整備していくことを行政が「街づくり」と捉え、取り組んでいくことが必要ではないか。
- ・指導者が高いレベルで指導していかなければならないので、それなりの報酬が必要になってくる。資格取得及び更新に係る費用をどこまで自己負担してもらうのかなど。
- ・教員の業務量が20年ほど前から増えている。何とか業務内容を簡素化していかないといけない。世の流れとして学校に部活動を残すということにはならないと思うが。私は、教員が部活動を手放すのは、あまり良いこととは思わない。子どもと学校だけでなく、部活動でも繋がっていることは先生にとっても強みになる。

【知事まとめ】

- ・部活動の地域移行には、地域とのコミュニケーションを図り、繋がりを強くしていくことが大切。行政が単独で進めて行けるものではなく、学校、地域等と連携して取り組んでいく必要がある。
- ・それぞれが知識、知恵を持ち寄って、いい形を築き上げていただきたい。